

坂田一男の顕彰と研究活動

坂田一男研究会

活動の目的

この講演会は、坂田一男のパリ時代、特に坂田一男が師事したレジェの指導するアカデミー・モデルヌでの教育の実態と坂田一男の制作の背景を知ることが目的とした。同じ時期にキュビズム風の画風で描いたアンドレ・ロートが教室を開いており、こちらには黒田重太郎など日本人画学生も多くいた。この2つの画塾を比較考察することにより、坂田一男の芸術の特性を明らかにしようとする狙った。

活動の内容及び経過

平成29年度坂田一男研究会講演会「坂田一男とパリのアカデミー」を10月28日（土）岡山県立美術館地下講義室にて開催。講師は山本友紀（京都嵯峨芸術大学非常勤講師・日本学術振興会特別研究員）。参加者は42名。

わが国における数少ないフェルナン・レジェの研究家「フェルナン・レジェ オブジェと色彩のユートピアーキュビズムからフランス人民戦線まで」（春風社2014年刊行）の著書もある山本友紀氏に講演をいただいた。山本氏は昨年河本真理氏による坂田一男研究会講演会に来られ、その時が初顔合わせであったが、坂田一男が師事したレジェの研究者ということで、講師をお願いした。

活動の成果・効果

1920年代にパリで学んでいた日本人画家たちのうちキュビズムに着目して学んだ画家は数は少ないが、その多くはアンドレ・ロートの画塾で学んでいる。黒田重太郎がその代表である。ロートの画塾と坂田一男が学んだレジェのアカデミー・モデルヌとの違いを浮き彫りにし、坂田一男がレジェからどのような影響を受けながら独自の表現を開拓していったかが明らかになった。この点で有益な講演であり、知見を広めることができた。

今後の課題と問題点

2019年に東京ステーション・ギャラリーで坂田一男展が開催される予定で準備が進められている。没後のブリュクストン美術館での遺作展以来の東京での坂田一男展ということになり、中央で注目されるであろうし、この機会に坂田一男の芸術が全国的にも知られるよい機会となると思われる。坂田一男を大きな視野でとらえていく必要性を感じている。



- 代表者：妹尾克己 ●所在地：岡山市北区内山下
- E-MAIL：sakata.kazuo.society2009@gmail.com
- 設立年：2009年 ●メンバー数：97名